産経新聞 8月29日(金)掲載
（サイズ：全10段）

日本の誇りを取り戻すために

評論家・上智大学名誉教授 **渡部 昇一氏** 対談 幸福実現党 党首 **釈 量子氏**

歴史の真実を知り自信を持って生きる

渡部 昇一氏

わたなべ・しょういち●1930年、山形県生まれ。上智大学大学院西洋文化研究科修士課程修了。ドイツ・ミュンスター大学に留学し哲学博士号を受け、1958年、同大学名誉哲学博士授与。イギリス・オックスフォード大学特別研究生。フルブライト訪米教授。2001年より上智大学名誉教授

釈 量子氏

しゃく・りょうこ●1969年、東京都生まれ。國學院大學文学部史学科卒業。大手家庭紙メーカー勤務を経て、1994年、宗教法人幸福の科学に入局。常務理事などを歴任。幸福実現党に入党後、女性局長などを経て、2013年7月より現職

中国が、南京事件と慰安婦問題に関する資料をユネスコ（国連教育科学文化機関）の記憶遺産に登録するよう申請するなど、歴史認識をめぐる問題が依然続いている。こうしたなか、日本が誇りを取り戻すために、今何をすべきか。幸福実現党の釈量子党首が、評論家で上智大学名誉教授の渡部昇一氏と語り合った。

マッカーサー自身が否定した「侵略戦争」

釈 幸福実現党では昨年から河野談話の白紙撤回を求める署名活動をしていました。当初、署名される方は少なかったのですが、女性たちを強制的に慰安婦に従事させるという文書は発見できなかったことを石原信雄元官房副長官が国会で証言したことなどもあり、逆に自ら署名したいという方も増えていきました。ただ一方では、私たちの活動に強く反論される方もいらっしゃいます。

渡部 その背景には、敗戦直後から進駐軍が日本人に罪悪感を持たせようとした活動が長く続いていて、学校でもそう教えたことの影響が大きいのでしょうね。

釈 戦後70年近くたった今もなお、このような状況が続いています。先生は、今後どうすればよいとお考えでしょうか。

渡部 まず、日本が侵略戦争を行ったといわれることへの回答には2つあります。1つは、日本を裁いた東京裁判ですら、中国への開戦責任を問うことができなかったということです。日本が悪いと思い込んで始まった東京裁判ですが、結局、開戦責任を示す証拠を見つけることができなかったのです。もう1つは、東京裁判は連合国がマッカーサーに全権を委任したものであり、国際法ではなくマッカーサーが作ったチャーター（裁判所条例）で裁いたものだということです。

釈 マッカーサーが法源になっているということですね。

渡部 マッカーサーそのものなのです。ところが、そのマッカーサーが朝鮮戦争の中途でアメリカに呼び戻され、上院の軍事外交合同委員会で驚くべき証言をしているのです。上院というのは、アメリカ全体のことを決める場であり、その軍事と外交の合同委員会ですから極めて重要です。彼はある議員の質問に答え、当時の日本の状況を言った後に、「したがって、日本がこの前の戦争に入ったのは主として自衛のためであった」と言ったのです。非常に重要なので、私はいつも英語で言うことにしています。

「Their purpose, therefore, in going to war was largely dictated by security.」です。要するに、日本は近代産業国家といっても持っているのは絹産業だけで、石油でもスズでも資源はアジアの海域にあった。われわれがそれを売らないことにしたため、日本は1000万人から1200万人が失業する可能性が生じ、自衛のために戦争に入ったんだと言ったのです。若い方にも、ぜひこの英語とその意味を覚えていただきたい。しかもそれは、東条大将の宣誓供述書と同じ趣旨になっています。

釈 アメリカの上院で証言したということは、非常に重い意味を持ちますね。

渡部 その通りです。彼の日記でもなく、伝記でもなく、友人に語ったことでもありません。マッカーサーがアメリカ議会で宣誓証言した、公式中の公式発言なのです。

釈 まさに今、1993年の「河野談話」と、95年にアジア諸国への植民地支配と侵略を認めた「村山談話」が注目されており、先生がおっしゃった2つの事実を見直すには絶好の機会といえます。

渡部 東京裁判で日本に中国への開戦責任を問うことができなかったこと、マッカーサー自身が日本の侵略戦争を否定したことを、日本人に改めて知ってほしいです。そして、外務省の人たちには、国の方針として海外の人に教えていただきたいです。

歴史の真実を物語る日本軍の規律の正しさ

釈 来年は戦後70年となりますが、中国政府が、日中戦争時に旧日本軍の南京占領下で起きたとされる南京事件と、慰安婦問題に関する資料を、ユネスコの記憶遺産に登録するよう申請したと6月に発表しました。このままですと、来年の夏ごろにはこの一方的な申請により登録されかねません。

渡部 南京の問題に関しては、大虐殺があったという証拠を中国政府は持っていません。持っているわけがないのです。もともとないのですから。持っていたとしたら蒋介石政府なのですが、李登輝総統のころに調べましたがやはりありませんでした。日中戦争時、中国で一番偉かった蒋介石は、外国人記者と三百回も会っていて資料も残っていますが、南京でそうした事件があったことについて一度も発言していません。さらにこの事件を本に書いたティンパリーという人は、一度も南京に行っておらず、伝聞で書いているのです。

釈 よく、大虐殺はなかったかもしれないが、虐殺はあったのではないかとおっしゃる方もいます。

渡部 この件について、日本「南京」学会という団体があって、亜細亜大学の東中野修道教授や立命館大学の北村稔教授が徹底的に研究しました。それこそ、1小隊が何日にどこに移動したかまで全部調べたのです。研究の結果、そうした事実はなく、結論として虐殺された市民は限りなく0に近かったのです。

釈 この事件について東京裁判で証言したマギー牧師も、実際に自分で目撃したのは何人だと聞かれて1人だと話していますね。

渡部 それも、安全地区のなかに兵隊やゲリラが入らないように番兵が見張っているとき、制止を振り切って駆け込もうとして撃たれたものです。これは虐殺ではありません。日本は国際法に基づき市民が守られるオープンシティを勧告しましたが、中国が拒否したため街が戦場になりました。しかし、中国が安全地区とした場所には日本軍は砲撃をしませんでした。ですから市民の虐殺は限りなく0に近いのです。

釈 日本軍の軍規の厳しさや、規律の正しさはそうしたところにも表れていますね。日本人は明治のころから、人種差別を撤廃するため、そして不平等条約を撤廃するため、自ら模範でありたいと非常に規律正しくして、海外に出たときに尊敬される日本人像を残してきています。

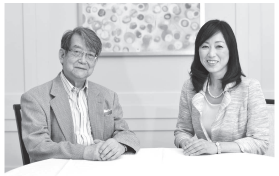
渡部 北清事変（義和団の乱）のときも、他の列強が北京の街なかで略奪を行うなか、日本軍は故宮博物館を封鎖して守り、宝物を何一つ盗んでいません。日本軍はそういう兵隊だったのです。

未来を切り開くためにも自信と誇りを

釈 こうした日本人の美徳や、日本人の考え方について海外の方に理解を深めていただくためには、どうすればよいとお考えでしょうか。

渡部 公式にやるのは難しいかもしれませんが、私の知る限り、アメリカ人のインテリ層で日本人の本当の声を聞きたいという人はたくさんいます。ところが読む物がないのです。私は、日本政府がODAに使うお金の何分の一でもいいから使って、日本の書籍を翻訳して世界中の大学に配るべきだと思っています。それだけでもずいぶん違うはずです。たとえば『正論』を毎号全訳するとか。

釈 私たちも、もっと海外の方に理解を深めていただくため、英語での発信に取り組んでいます。いわゆる従軍慰安婦の問題についても、英文で発信を試みようとしていますが、この問題についてはアメリカで人権問題ととらえられ、もうそっとしておくべきといった声も聞こえます。



渡部 私はこの件に最初のころから関わっていますが、日本の対応にも問題があります。従軍慰安婦の問題に関しては、ただ1点「強制連行はなかった」と、これだけを言えばいいのです。この問題の本質は強制的に連れてきたかどうかであり、実際、そうした証拠はないわけです。状況を考えても、当時多くの警官は朝鮮人がなっていましたが、そうしたなかで20万人もの若い娘を誰がどうやって強制的に連れ去るのでしょうか。ありえないでしょう。朝鮮は平穏そのものだったのです。

釈 本当ですね。こうした問題に関しては、私たち女性も声を上げて、ひとつの力になっていければと思います。同時に、政治のほうでもやはりしっかりと筋を通さなければならない時期に来ていると思っています。

渡部 日本の敗戦後、外務大臣・重光葵は、日本全権となってポツダム宣言受諾による降伏の契約書に署名するという、誰もが嫌がる役を引き受け、その心境を「願くは　御国の末の　栄え行き　吾名さげすむ　人の多きを」と詠んでいます。彼は心ならずも敗戦の署名をしたわけですが、この国がやがて栄えていって、署名した自分を軽蔑する人が増えるように歌っているのです。

釈 私たちの父母、祖父母にあたる世代や、その上の先人たちは、本当に国の行く末を考え、命に代えて日本を守ってくださいました。その方々がいわれなき罪をきせられることは断じて許せません。私たちとしましても、命に代えてでも、この国の誇りを取り戻すためにしっかり行動していかなければと思っています。ありがとうございました。

PR 企画・制作／産経新聞社営業局